

I . 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の概要



北海道医療大学大学院

○ 北海道医療大学大学院の教育理念・教育目標

教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、人間性豊かな高度専門職業人の養成ならびに独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを北海道医療大学大学院の教育理念とする。

教育目標

1. 豊かな学識と人格の養成
2. 高度な専門知識および学術の修得
3. 独創的な研究および研究能力の開発
4. 社会の要請に的確に対応できる教育・研究の推進

大学院医療技術科学研究科 臨床検査学専攻（修士課程）

○ 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の教育理念・教育目的・教育目標

教育理念

医療技術の進歩と医療環境、社会環境の変化により高度化、多様化が進む医療分野に対応できる高度な専門性ならびに指導力を備え、人間性豊かな高度専門職業人を養成することにより、保健・医療分野の発展と人類の健康増進に貢献することを医療技術科学研究科臨床検査学専攻(修士課程)の教育理念とする。

教育目的

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（修士課程）の教育理念に沿って、人々の健康増進と保健・医療分野の発展のために、臨床検査学の先進的な知識と技術を持って、質の高い臨床検査を実践でき、主体的に学び成長し、指導的役割を担う高度専門職業人の養成を目的とする。

教育目標

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（修士課程）の教育目的に沿って、以下の教育目標を定める。

- ①幅広い学識と生命を尊重する豊かな人間性を備えた人材の養成
- ②臨床検査分野における高度な知識と技術を備え、質の高い臨床検査を実践できる人材の養成
- ③優れた問題解決能力を備え、包括的な視野を持って臨床検査の管理運営を実践できる指導的役割を担う人材の養成
- ④国内外の保健・医療分野への貢献を視野に入れ、主体的に学び、修得した能力を社会へ還元し成長できる人材の育成

○ 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の三方針

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（修士課程）では、人々の健康増進と保健・医療分野の発展のために、高度専門職業人として臨床検査学の最先端の知識と技術を修得、実践し、自己研鑽ができる指導的役割を担う人材の育成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

- ①生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある者
- ②臨床検査学領域の高度な専門性と研究能力を有する高度専門職業人をめざす者
- ③医療現場において指導的役割を担う医療人をめざす者
- ④保健・医療の分野に深い関心を持ち、自己研鑽ができる者

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「一般選抜」は、英語及び臨床検査学領域に関する専門科目の筆記試験により修学に必要な学力を評価し、さらに志望理由書、履歴書及び業務調書などの出願書類と面接により修学意欲及び研究計画の妥当性などについて評価します。

「社会人選抜」は、小論文により論理的思考力、表現力を評価し、さらに志望理由書、履歴書及び業務調書などの出願書類と面接により修学意欲及び研究計画の妥当性などについて評価します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（修士課程）の教育目標に基づき、以下の要件を満たすことで修士（臨床検査学）の学位を授与する。

- ①幅広い学識、高い倫理観を備えた医療人として、多様な背景を持った人々と共感し、円滑なコミュニケーションを取る能力を身につけていること。
- ②臨床検査に携わる高度専門職業人として、医療環境の変化や社会的ニーズを把握し、臨床検査や関連研究から新しい知識と技術を修得、実践・応用し、質の高い臨床検査を提供できる能力を身につけていること。
- ③様々な視点から現状の課題と今度の医療環境の変化を把握し、科学的根拠に基づく的確な判断を持って、組織の管理運営を実践できるリーダーとしての能力を身に付けていること。
- ④身近な地域および国際的な保健・医療や社会の動向に目を受け、常に自己研鑽に努め、修得した能力を社会へと還元し、自ら成長できる能力を身につけていること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科は、本学の基本理念を重視し、臨床検査学に関する深い専門性を持って、保健・医療の分野へ貢献する高度専門職業人の育成を目的とし、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力の修得に必要な教育・研究を実践する教育課程を編成・実施する。本研究科では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを策定し、これに基づき講義、演習を行う。

- ①幅広い学識、高い倫理観を備えた医療人として、多様な背景を持った人々と共感し、円滑なコミュニケーションを行う能力の修得を目的として、科学の基礎知識に関する科目、病態の成因機構に関する科目、保健・医療制度や医療倫理をテーマとする内容を含む科目、チーム医療やコミュニケーションをテーマとする内容を含む科目を配置する。
- ②臨床検査に携わる高度専門職業人として、医療環境の変化や社会的ニーズを把握し、臨床検査や関連研究から新しい知識と技術を修得、実践・応用し、質の高い臨床検査を提供できる能力の修得を目的として、最新の診断法や治療法とそれに関わる臨床検査に関する科目、学部教育を基盤とした臨床検査分野の専門性を深化させる特論と演習科目、研究遂行に必要となる情報収集や解析方法、研究倫理などの知識や技術に関する科目を設置する。
- ③様々な視点から現状の課題と今後の医療環境の変化を把握し、科学的根拠に基づく的確な判断を持って、組織の管理運営を実践できるリーダーとしての能力の修得を目的として、医療組織や検査室の管理運営をテーマとする内容を含む科目、最新の診断法や治療法とそれに関わる臨床検査に関する科目、Society 5.0 による臨床検査環境の変化を視野に入れた数理・データサイエンス・AI の修得と活用に関する科目を設置する。
- ④身近な地域および国際的な保健・医療や社会の動向に目を向け、常に自己研鑽に努め、修得した能力を社会へと還元し、自ら成長できる能力の修得を目的として、国際的な医療の動向をテーマとする内容を含む科目、予防医学や感染症予防に関する科目、新しい診断法や治療法に関する英語論文を主体的に探索し読解する科目、主体的な知識や技術の修得と応用、自己研鑽による成長を目的とした研究科目を配置する。

○ 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の概要

超高齢化や新興感染症などによる疾病構造の変化、Society 5.0 へのシフトと医療 AI の進歩など、医療を取り巻く環境の劇的な変化に対応できる臨床検査技師を育成することが急務となっている。そうした現状においては、臨床検査領域での新規課題を的確に読み取り、予防医学、AI やロボット技術、感染制御などの最新知識・技術を修得し、修得した知識や技術を臨床現場において有効に活用できる能力が強く求められている。

このような背景を踏まえ、臨床検査分野における高度専門職業人を育成することによって臨床検査分野の進歩を図り、地域社会の発展と人々の幸福に寄与することを目的として、医療技術学部の完成を機に、2023 年 4 月に医療技術科学研究科修士課程を開設した。本研究科では、生体機能解析学、病態情報解析学、血液病態解析学、免疫細胞生物学、感染生物学、遺伝子関連検査学、分子細胞病理学などの臨床検査学における専門分野について、学部教育で修得した基礎的能力を発展させるためのカリキュラムが編成されている。さらに、社会のニーズや医療分野の課題を視野に入れ、新たな臨床検査の技術・方法を研究する素地を身に付けるため、本学の既存の学部・研究科、関連諸学問分野との連携を図りながら教育・研究を推進していく。

○ 修業年限・学生定員

課 程	専 攻	修業年限	定 員	
			収容定員	入学定員
医療技術科学研究科修士課程	臨床検査学専攻	2年	4名	8名

○ 研究分野

修士課程・臨床検査学専攻
【 7 研究分野 】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体機能解析学 ・ 病態情報解析学 ・ 血液病態解析学 ・ 免疫細胞生物学 ・ 感染生物学 ・ 遺伝子関連検査学 ・ 分子細胞病理学

○ 担当教員

■ 臨床検査学専攻 修士課程 担当教員

専攻	研究分野	教 授	准教授	講 師
臨床検査学専攻	生体機能解析学	幸村 近		
	病態情報解析学	遠藤 輝夫		高橋 祐司
	血液病態解析学	田中 真樹		高橋 祐輔
	免疫細胞生物学	坊垣 暁之		
	感 染 生 物 学	松尾 淳司		山崎 智拡
	遺伝子関連検査学	吉田 繁		
	分子細胞病理学			丸川 活司 近藤 啓
		藏満 保宏 (二瓶 裕之)	鈴木 喜一	江本 美穂